



SEASON's TOPICS

工学博士

伊賀 健一

町田のプロフェッショナル

社会福祉法人 悠々会 理事長

陶山慎治





4 SEASON's TOPICS

伊賀 健一

面発光レーザーと歩んだオデッセイ

6 町田のプロフェッショナル

社会福祉法人 悠々会

理事長 陶山 慎治

安心して歳を重ねられる
—そんな町田にしたい

8 続・歩いてわかる新発見 — VOL.20

原町田七福神めぐり

10 町田発 旬の味 パンステージ エピソード

11 俺たち、2代目 堀内 康裕

12 ためになる! 税理士コラム

14 町田法人会とは?

16 町田法人会の活動報告&イベント

18 町田の古ばなし

19 e-Tax推進事務所

20 INFORMATION

22 町田法人会からのお知らせ

23 ことばの力



翡翠

Kawasemi

町田法人会は、公益社団法人の認定を頂いてから7年目に入りました。

「税を通じて地域社会に貢献する法人会」として、
税務研修・経営研修・地域貢献などの公益事業や福利厚生・会員交流など会員のための
共益事業を通じて、企業経営者の満足度向上を活動方針としています。

異業種経営者との出会いがもたらす情報交換やビジネスチャンス、
税務研修会や経営セミナーで得られる最新の税情報や多岐にわたる実務知識などから
事業経営の合理化も図れます。時宜を得た公開講演会や経済講演会、見学研修会や
チャリティーゴルフ大会、親睦ボウリング大会などの楽しい恒例行事もご好評を頂いています。

市民の皆様へ愛される魅力ある事業を展開してまいりますので

これからも町田法人会をよろしくお願ひ申し上げます。



この広報誌は、カワセミが美しい翼を広げて羽ばたくように
公益社団法人 町田法人会も飛躍できますように、という想いをこめて【Kawasemi】と名づけられました。

面発光レーザーと歩んだオデッセイ

Vertical Cavity Surface Emitting Laser



SEASON'S TOPICS

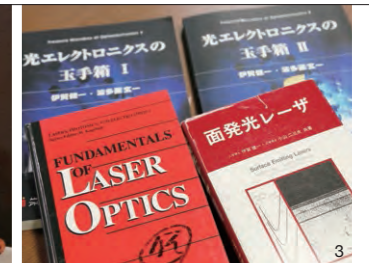
Profile

伊賀健一

1940年6月生まれ。
1963年東工大理工学部電気工学課程卒。
1968年同大学院博士課程修了(工学博士)。
東工大教授、米ベル研究所客員研究員、東工大精密工学研究所長などを経て2001年4月に東工大名誉教授。以後、日本学術振興会理事、東工大学長(2007-12)などを歴任。
紫綬褒章をはじめ、市村賞、朝日賞、藤原賞、Rank賞、IEEEノーブル賞、フランクリン賞(パワー賞)など受賞多数。電子情報通信学会2004年度会長、応用物理学会微小光学研究会代表。



Photo by New Communications Inc.



■2013年4月23~25日、米国フィラデルフィアで行われたフランクリン賞の授賞式で輝々たる研究者たちと(左から4人目)町田フィルハーモニー交響楽団の首席コントラバスを歴任した伊賀博士。町田フィルバロック合奏団の主宰者でもある著書は15冊以上、論文の数も450以上にのぼる。最近も、「面発光レーザーが輝くVCSELオデッセイ」を上梓した

工学博士
Kenichi Iga

伊賀健一

2018年11月東京工業大学名誉教授で元学長・伊賀健一氏が瑞宝重光章を受章した。同氏は東工大を2001年に定年の後、日本学術振興会理事としてまた、東工大の学長として貢献したことが評価されたもの。

専門はレーザー。1977年に半導体表面から垂直に光を発する「面発光レーザー」を発明した。シンプルな製作工程の2次元アレイ構造を特

徴とし、僅かな消費電力で高速動作、しかも長寿命というメリットがある。今日のIT社会を支える高速データ通信のキーデバイスなどに実用化されているだけでなく、スマホの顔認証など私たちの生活に必要な不可欠なものとなっている。
面発光レーザーの発案と光エレクトロニクスへの広範な応用の研究の業績で、2013年5月に科学技術の世界的学術賞「フランクリン賞」最高位のパワー賞も受賞した。ノーベル

賞よりも歴史が古く、その第1回受賞者はあのトーマス・エジソンだ。ライト兄弟やアインシュタイン、ベル、キュリー夫人なども名を連ねる。日本人の受賞は、金出武雄教授(カーネギーメロン大)に次ぐ二人目だが、国内の研究者としては初の受賞となる。町田市では町田市市民栄誉章を授与している。

生まれは広島県呉市。旧軍港が見える自分の家の山に入つて虫を採つ

たり、スケッチをしたり、のびやかに子ども時代を過ごす。小学生の時に、蔵に眠っていた祖父の電気部品の中から使えるパーツを寄せ集めて鉱石ラジオを作って音楽を聴いた。中学生になると、真空管のアンプやスーパーヘテロダイン受信機などを完成させたという。

広島大学附属高校から東京工業大学理工学部に進学。4年の時に、後の学長・末松安晴助教授の研究

室でレーザーを中心とする光・量子エレクトロニクスの勉強を始める。これがその後続く研究への第一歩だった。1962年秋には、ルビー結晶を加工し東工大初のレーザー発振に成功。大学院博士課程へ進み、その後東工大精密工学研究所助手、助教授、教授と生涯を研究に捧げてきた。

「世の中にレーザーが登場したのが1960年。そんな時、光を通信に使おうと末松先生が言い出したんです。新しいことだから競争して勝てるかも、と思いましたが。そして、その後面発光レーザーを発明しましたが、その当時、実用化は殆ど期待されていなかったんです。それが、今では世界中でこんなに多くの製品に使われるようになった。本当に嬉しいですね。」と述懐する。

現在は、多くの公益財団の理事や評議員を務め、学術賞の選考や講演、執筆活動で忙しい日々を送る。閑静なつくし野に居を構えたのは1968年12月。すずかけ台に東工大のキャンパスが出来たのはそれから7年後。演奏歴60年のコントラバスは、町田フィルや町田フィル・バロック合奏団で美しい音色を放っている。ラジオ少年が発明した宝物で世界はもっと変わっていく。

